

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済情勢は、企業業績および雇用情勢に改善傾向がみられ、全体として緩やかな回復基調にあります。一方で中国をはじめとする新興国経済の減速懸念や、為替の変動など、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

調剤薬局事業におきましては、平成28年4月に実施されました調剤報酬改定で、「かかりつけ薬剤師・薬局」の評価が導入されるなど多様化するニーズへの対応が求められており、当社グループでは患者様の視点にたった「かかりつけ薬剤師・薬局」を目指し、人材教育・店舗作りに取り組んでおります。また、ヘルスケア事業におきましては、介護サービスの需要は一層拡大していくものの、これを支える人材の確保・育成が重要な課題となっております。

このような中、当社グループは超高齢社会の進展に伴い医療・介護サービスの需要は拡大するものと捉え、安全性を最優先としつつ事業規模の拡大および収益力の強化に取り組んできました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高7,574百万円(前年同期比7.6%増)、営業利益278百万円(前年同期比14.5%減)、経常利益241百万円(前年同期比35.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益319百万円(前年同期比12.0%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、既存店の売上が伸長したことに加え、前年度に新規出店およびM&Aにより加わった店舗が寄与し、増収となりましたが、平成28年4月に実施された調剤報酬改定および薬価改定の影響等により、営業利益は減少となりました。この結果、売上高は5,890百万円(前年同期比5.2%増)、営業利益370百万円(前年同期比16.4%減)となりました。

② ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、有料老人ホームの入居者確保と、前期に新規開設した施設が寄与し売上は堅調に推移しました。この結果、売上高1,121百万円(前年同期比6.2%増)、営業利益52百万円(前年同期比66.7%増)となりました。

③ 医薬品卸事業

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品使用促進策に沿って市場が拡大する中、三重県、岐阜県、滋賀県を中心に積極的な営業活動を行いました。また、平成28年4月に愛知県を中心にジェネリック医薬品を販売する大豊薬品株式会社を子会社化し、営業エリアの拡大を図りました。この結果、売上高533百万円(前年同期比51.9%増)、営業利益23百万円(前年同期比23.5%増)となりました。(内部売上を含む売上高は687百万円となり、前年同期比で42.4%増加しました。)

④ 不動産事業

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高29百万円(前年同期比2.4%増)、営業利益13百万円(前年同期比7.0%減)となりました。

また、投資事業におきましては、効率的な運用成績となっております。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。